

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

令和元年度第5回 理事会 議事録

令和元年7月11日(木) 11:50~14:00

〒350-1124 埼玉県川越市新宿町1丁目17-17

ウェスタ川越3階 研修室4

【出席した理事】大川 淳、川上 守、西良浩一、高相晶士、種市 洋、千葉一裕、永島英樹、
中村博亮、中村雅也、長谷川和宏、前田 健、松山幸弘、山下敏彦、山田 宏、
渡辺雅彦

【欠席した理事】島田洋一

【出席した監事】加藤文彦、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】 中村博亮理事長は定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

審議・決議事項

1. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員入会審査(5月~6月)【資料1】

5・6月の入退会について全員承認された。

2. 教育研修委員3名追加の件

西良理事が、教育研修委員として以下の3名の追加を提案し一同検討の結果、承認した。

- ・信州大学 高橋淳先生
- ・和歌山県立医科大学 中川幸洋先生
- ・高知大学 武政龍一先生

3. その他

・国際委員会より：NASS旅費の件

中村雅也理事が、昨年も同時期に国際委員会として支出を依頼したNASSの旅費を、今年度は予算計上し忘れたとして、今年度の支出について決議を求めた。一同検討の結果承認した。

・学術集会プログラム等検討委員会より：中村雅也理事を委員に追加の件

渡辺理事が、学術集会プログラム等検討委員会に中村雅也理事を委員として追加することを提案し、承認された。

審議・報告事項

1. 倫理委員会より：6/23の委員会報告

永島理事が、2件の倫理審査について報告した。データベース委員会からの「頸椎人工椎間板OLIF51」は、資料のとおり承認された。プロジェクト委員会からの「頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物治療の臨床経済研究」については、修正点があり申請者に差し戻された。

2. JSR編集委員会より：JSRオンライン化スケジュール【別添資料1】

長谷川理事が、JSR オンライン化スケジュールを杏林舎からの資料に基づき説明し、以下について検討した。

1) 「原著論文」を二次出版として掲載する場合、その論文を掲載する際は「原著論文」と称してよいか

JSR 編集委員会内では以下 の2つの考え方に分かれた

原著論文と称せるのは、オリジナルペーパーのみであり二次出版時には「原著」論文とは称せない

二次出版であってもオリジナルペーパーが原著論文なのであれば、原著論文で二次出版と称することができる

一同検討し、 の考え方がよいとの判断に至った。

2) 「医中誌」に二次出版の区分がない件

長谷川理事が、医学中央雑誌のホームページで論文の種類を調べると、現状「二次出版」の区分がなく、二次出版についてはおそらく「一般」という区分になるが、「二次出版」の区分を設ける必要があるのではないかという点。

一同検討の結果、大川庶務担当理事から医中誌へ問い合わせおよび「二次出版」の区分を設ける要望をすることになった。(問い合わせた結果、医中誌でも必要性を理解され、検討するとの返答を得た。)

3) JSR3号(抄録集)の発行について

長谷川理事が、前回理事会で指摘された抄録集のみの紙媒体での発刊について、発行および発送で1000万円以上の経費がかかると説明した。また、JSR 編集委員会内で紙媒体の抄録集の利用状況について尋ねたところ、紙媒体の抄録集を会場で利用した委員はおらず、全員ポケットプログラム(以下ポケプロ)やアプリ等を活用していたと報告した。そのほか、事前のポケプロの送付、会場内プリンター設置などが検討された。

中村理事長が、抄録集の完全電子化を数年告知し続けてから踏み切るのはどうかと提案し、一同賛同した。第51回の中村雅也理事の学術集会からとすることで意見が一致した。

4) JSR 投稿論文のアブストラクト・キーワード・タイトルについて外部英文校正を行うかについて

長谷川理事が、現状も JSR 掲載論文には英文のアブストラクト・キーワード・タイトルが掲載されるが、著者によっては英文に不備があるため、学会の経費で外部英文校正を依頼するかについて提起した。一同検討の結果、費用を含めて承認した。

3. データベース委員会より：頸椎人工椎間板 OLIF51 レジストリー関連【資料5】

種市理事が、頸椎人工椎間板 OLIF51 レジストリーについては、先の永島理事の報告の通り、倫理委員会から承認があったことを報告した。

その他事業としては、ACR 案件は以前の理事会でも報告の通りストップしていること、頸椎人工椎間板は順調に進んでいること、関係する各企業からの学会本体への事業に紐づけしない寄付については、企業側の理由で難航している部分もあるが進めていると報告した。

4. 国際委員会より：委員会報告【資料6】

中村雅也理事が、以下6点を報告した。

Spine Week について

4/29 午後に JSSR が 2 時間の Symposium を開催せねばならないため、国際委員会から 5-6 人推薦する予定。spine week 2020 の演題受付情報を JSSR ホームページへ掲載予定。

JSSR 2019 の EPA について

日本人上位 2 名（慶応義塾大学・大久保寿樹先生、大阪市立大学・玉井孝司先生）が次回 TWSS の Traveling fellow として選出された。TWSS の President である Prof. Chi-Chien Niu から、2020 年 TWSS への 2 名受け入れの了承を得た。JSSR より 10 万円まで旅費を支給予定。

Spine World Summit 2019 について

川口委員と小澤委員の演題が先方都合で一方的にキャンセルや変更をされたため、本会への参加をとりやめ、今後も JSSR として Spine World Summit に参加しないこととする。

JSSR 2020 の English Presentation Award (EPA) について

JSSR 2019 の EPA session では 48 演題を採択した。EPA のゴールド賞およびシルバー賞として各 5 名を選出。JSSR2020 でも同様の賞を設ける予定。審査員は過去 10 年の JSSR トラベリングフェロー受賞者に依頼する。教育研修講演、シンポジウムはすべて英語発表とし、一般演題のスライドを英語に指定する予定。

APSS life 会員への勧誘と現在の状況

APSS APPOS 2021 を JSSR が主体となり開催予定。

トラベリングフェローの先生方や各教室の主任教授に、APSS の Life 会員への入会に関するメールを送付し 4 月から 20 名増加になった。

2019 年 TWSS からのトラベリングフェロー受け入れ施設について

東北医科薬科大学と、山梨大学で受け入れることとなった。

5. 専門医制度委員会より：委員会報告【資料 2】

中村雅也理事が、第 4～6 回の脊椎脊髄外科専門医試験の結果を報告した。また第 7～9 回の試験の予定を報告した。

6. 指導医制度委員会より：【資料 3】

JSSR 認定脊椎脊髄外科指導医と JOA 認定脊椎脊髄病医について

前田理事が、JSSR 認定脊椎脊髄外科指導医と JOA 認定脊椎脊髄病医について、脊椎脊髄外科専門医自体が不確定な現状では、日整会認定脊椎脊髄病医の条件を外すことは時期尚早との結論となったことを説明した。

また、日整会松本守雄理事長も、現状のままとしてほしい旨回答があったことを報告した。

一同検討の結果、本議題を提起した島田理事が欠席であることもあり、継続審議とすることになった。

JSSR 認定脊椎脊髄外科指導医、申請時の提出症例について

全内視鏡脊椎手術、全内視鏡ヘルニア摘出術は経皮的な手術に該当しないと判断し、指導医新規申請、更新時の症例として提出可能と委員会内では判断したとの報告がなされた。一同検討の結果、承認した。

会員マイページ上に、指導医更新・新規申請の際に必須となる医療安全対策・感染防止対策・倫理等に関する研修単位（以下、倫理の単位）などの受講履歴や、当学会学術集会の参加履歴を登録することについて

委員会内では特に倫理の単位については受講証明原本が必須であるが、紛失する会員が後を絶たず、そのためだけに資格を失効するなどしているため、ぜひ前向きに進めたいと発言した。「審

議・報告9」で検討する。

7. 広報委員会より：JSSR ホームページ、リニューアルについて【資料4】

山下理事が、理事会各位へ E メールで連絡済みの学会ホームページリニューアルバージョンが完成したことを報告した。

リニューアルを担当したウェブスマイルからの最終的な請求が届き、財務担当理事の千葉理事が予算通りであると説明した。

8. COI 委員会より：新技術評価検証委員会の WG の COI 審査について

前田理事が、新技術評価検証委員会の新 WG（椎体形成術 WG）の COI 確認が完了したことを報告した。新技術評価検証委員会に関連した WG の構成委員には、ある程度厳密な COI 管理が求められる場合があるため、今後新たな WG などが創設される際には、COI 委員会にてメンバー候補者の COI を確認後にメンバー確定とすることが提案され、一同賛同した。

9. 事務局より：学会参加（事前登録）・医療安全単位、その他 WEB 名簿（マイページ）活用の件 【別添資料2】

事務局が、前回理事会で見積提出指示を受けたいいくつかの事項について、内容説明および見積金額の説明を行った。

1. 今年の第 48 回学術集会でも事前参加を検討したが、KCS 社の見積もり総費用、準備（制作）期間、クレジットカード決済手数料などに諸課題があり断念したとの説明があった。

2. 事務局である毎日学術フォーラム（以下、学会事務局）でのシステム作成費用の費用が説明された。

3. クレジットカード決済手数料に関しても説明がなされた。

4. 学会事務局で作成する場合は会員システムに連動可能である。

5. 来年度から学会として会員への発送物が請求書以外なくなることから、会員の住所やメールアドレスなど個人情報を確実に押さえておきたいという命題を抱えることとなった。学術集会事前参加を申し込む際に、各個人に個人情報を確認させる誘導ページを設けることで、事前参加登録を行った会員については、各個人の学会登録の個人情報をリフレッシュしてもらえる利点がある。

6. 学術集会運営事務局側での対応についても、簡便であることが説明された。

7. 事前参加登録をした会員については、当日運営事務局にて参加証を準備する。既登録で未参加の会員も把握できるので、「実際に参加した会員」が明確になる。参加履歴はマイページに登録し、閲覧できる見込み。

また指導医申請時に必須の倫理単位（指導医イブニングセミナーおよび研修コース）の登録についても、マイページへ登録および閲覧できるようにする場合の業務費用の見積も併せて提出され、一同査収した。

以下は提案

8. 学術集会事前登録推進策として、事前参加の人は従来通り 18000 円、当日の人は 2 万円でどうか。

9. 参加証に登録されたメールアドレスを記載し、アドレスに修正があった場合には変更を記載して会場備え付けのボックスに投函してもらおう。

10. 当日受付は、五十音順に参加証を並べ、現金の授受なく渡していく方法はどうか。

11. 事前参加登録へなるべく多くの人を誘導するために、当日参加の人はマイページに参加履歴が登

録されないとしてはどうか。

以上より、事前参加登録システムの導入、およびマイページへの 事前参加登録した会員の学術集会参加履歴 当日学術集会に参加した会員の学術集会参加履歴 指導医イブニングセミナー・研修コース ・ の参加履歴の登録を行うことが承認された。

今後の詳細については、2020年の学術集会（会長 松山理事）から始動となり、松山理事および大川庶務担当理事、渡辺学術集会プログラム等検討委員会担当理事が窓口になることになった。

10. その他

・日本臨床神経生理学会 術中脊髄モニタリングセミナーの件【別添資料3】

永島理事が、日本臨床神経生理学会（以下、JSCN）のから日整会宛に届いた専門医・専門技術師（術中脳脊髄モニタリング分野）創設の件には懸念点が多く、現状では本学会として承認できないとされた。

・社保委員会より：厚労省医療技術評価のヒアリングについて

大川理事が、厚労省医療技術評価のヒアリングが行われる予定があり、社保委員会の遠藤委員長が出席予定であると報告した。

・新技術評価検証委員会より：ヘルニコアについて【資料7】

渡辺理事が、現状ではコンドリアーゼは当学会指導医のみが使用可とされているが、非常勤の施設では「指導医のいる施設」に登録されていないため、使用できない事例があると説明した。そのような場合、新技術評価検証委員会へ連絡を求めることとした報告した。

・英文誌編集委員会より：Scopusに『SSRR』の過去分を登録する費用について

川上理事が、『SSRR』の過去分をElsevier社の運用する査読済み文献の世界最大級の抄録・引用文献データベースScopusに掲載する件につき、杏林舎から提出された費用見積の承認を求めた。一同検討の結果、承認した。

・学術集会プログラム等検討委員会より：学術集会のランチオンセミナー・イブニングセミナー・モーニングセミナーの募集金額について、学会で定めた金額があったが上限設定を変更したいと提起した。一同検討の結果、学会で定めてから数年がたっていることを鑑み承認した。

以上

令和元年7月11日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 中村博亮

監事 加藤文彦

監事 小西宏昭